

## 国語科学習指導案（例）

〇〇年〇月〇日〇曜日第〇校時  
第〇学年〇組〇〇名 指導者 〇〇〇〇

### 1 単元名

- ・単元を構想する場合、目標や児童の学習活動がわかるようなネーミングにする場合が多い。

### 2 単元設定の理由

- ・児童の実態・・・育成をめざす言語能力につながる国語科に関する実態（同領域・同系統の前単元の学習）
- ・単元観・・・単元や教材の特徴、付けたい力と単元を通して位置付けた言語活動（課題）、効果等
- ・指導上の工夫等・・・目標を達成するために行った指導上の工夫、指導形態等を書くようにする。

### 3 単元の目標 ※

- ・身に付けさせたい国語科の力を領域別を書く。

①「国語への関心・意欲・態度」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の項目は、いずれの単元にも位置付けることが基本。

②当該単元で重点的に取り上げて指導する領域に対応する目標を選んで設定する。  
(1領域または2領域で構成する。)

ア 国語への関心・意欲・態度	・・・	(文末は～しようとする)
イ 話すこと・聞くこと	}	(文末は～できる)
ウ 書くこと		
エ 読むこと		
オ 伝統的な言語事項と国語の特質に関する事項		

※活動目標（児童の目標）と指導目標に分けて書く場合もある。

### 4 単元（教材）の評価規準 ※単元の目標と整合性があるようにする

- ・評価規準は単元の目標が達成できた児童の姿（おおむね満足できる状況）を書く。

①「国語への関心・意欲・態度」を評価する観点はいずれの単元にも位置付けて評価を行う。（文末は「～しようとしている」）

②評価項目を「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」とする。

③「言語についての知識・理解・技能」は、いずれの単元にも位置付けることが基本。

ア 国語への関心・意欲・態度	・・・	(文末は～しようとしている)
イ 話す・聞く能力	}	(文末は～している)
ウ 書く能力		
エ 読む能力		
オ 言語についての知識・理解・技能		

「漢字学習などの言語について」に関する指導の場合は、「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」の2観点のみになる。「伝統的な言語文化について」も2観点のみの場合が多い。

## 5 学習指導・評価計画

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
				[読]・・・	

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・身に付けさせたい国語科の力を書く。文末は「～できる」
- ※活動目標（児童の目標）と指導目標に分けて書く場合もある。

### (2) 展開

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
		活動内容を書く。	○ 目標達成において、教師が特に配慮したいことについて書く。	[読]・・・ ～している  (本時の目標に準拠した評価を行う。)	

### (3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	※具体的な姿の中の一つの状況を示す。 ～している
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手だて	※個々の状況に応じてできるだけ具体的な支援策を示す。 ～する

「単元全体の目標・学習指導・評価」「本時の学習の目標・学習指導・評価」が整合性をもって位置付けられるようにすることが大切

※指導案の形式は様々です。児童や学校の実態に合わせたものを工夫しましょう。